

足寄高 野球全道今年こそ

部員最多29人 今季始動



部員減少傾向の中、過去最多となる29人の新チームが始動した足寄高野球部

池田監督最終年度 「勝って地元へ元気」

【足寄】足寄高野球部に今春、新1年生16人が入部し、新チームが始動した。同校に残る記録によると、計29人の野球部員は過去最多。2020年春に就任した元日本ハム選手の池田剛基監督の下で野球を希望する「池田効果」もあり、町内外から生徒が集まった。過疎化や少子化で単独チームが困難な町村部の高校にとって期待は大きい。5月8日に開幕する春季高校野球大会十勝支部予選を突破し、初の全道大会を目指す。
(岡田圭史)

同校野球部は部員減で他 動再開を機に、池田監督が校と通合チームを組んで出 18年のコーチ就任を経て監督した経験もあり、長く休 督へ。20年には野球部復活部状態が続いた。17年の活 後の公式戦初勝利、支部予

選決勝進出を果たした。昨年の支部予選は強との対戦で結果は伴わったが、選手の自主性を感じながら走攻守のバランスを心掛ける池田監督「伸び伸び野球」が浸透。新1年生は十勝以外の新チームは冬場の節や振り込みを強化して力が向上し、攻撃力に届かなかった。エース山本投手は長身の左腕で制球が持ち味。武藤達海主守備の要で打線のつなを果たすなど、3年生寄出身コンビが投打を張る。

新チームとして初の練習となった16日、選手生き生きとした表情でウンドを駆け回った。コロナウイルス禍で鈍戦感覚を取り戻そうと型連休中には池田監督校・鶴川高（胆振管内わ町）に胸を借りて練習を行う。武藤主将はこれまで負けた試合は紙で、勝ちきる力が重要つことでマチを盛り上げたい」と語る。

池田監督は日本ハム町に派遣された任期付員で本年度が最終年度。田監督は「許される限監督業を続けたい。北海道大会の準決勝、決進出して、来年開業のハム新球場で試合がいい」と語り、藤代和昭長も「継続できるようなしたい」と話す。